

町田市長  
石阪丈一殿

2020(令和2)・11・25  
20人学級を実現する会

## 要望書

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

私たちは、自分の子どもや孫、地域の子も達の通っている学校のークラスの人数を少なくしてほしい、35人学級、30人学級、20人学級と減らしてほしいという一点で集まっている会員50人の市民の会です。

新型コロナの東京の一日の感染者が1000人を超えるかも知れないと言われている昨今、私たち市民も感染防止のためあらゆる努力を払っているところですが、町田市・市議会におかれましても市民の為に様々な努力をされておられる事に感謝いたしております。

政府の専門家会議から「新たな生活様式」が提唱され、また、教育委員会より指針が示され、各学校においても児童・生徒・教職員の感染防止のために日々努力しております。しかし、学校が「新たな生活様式」を実現するには、まだまだ学校だけの努力では足りない状況です。どうしても、町田市、東京都や国の援助が必要です。

「新たな生活様式」では、人と人との間隔は、1.8mから2mあけるように言われていますが、ある学校での実験によると、一つの教室には机が12個しか入れることができません。つまり、ークラスの人数は約12人ということです。一つの教室に40人の机を並べた場合は、間を50cmくらいしかあけることができません。

1学級あたり40人(1年・2年は35人)という国の教員配置の基準により、町田市内の小学校10学級・中学校11学級がマックス40人になっております。36人以上の学級は、なんと小学校125学級・中学校145学級にのびります。

(町田市ホームページ参照)

このような三密の状態、子ども達はけなげにも毎日通学、学習しております。公共施設、レストランなどあらゆるところで三密回避の努力が続けられておりますが、それらは

毎日行くところではありません。行きたくなければ行かなくてもすみます。しかし、学校だけは行かざるをえないのです。子ども達は三密が嫌だから学校に行きたくないとは言えません。また、保護者も学校は子どもには成長のためにどうしても必要と考える人がほとんどです。

国の中でも、今こそ少人数学級を！の聲が高まっています。日本教育学会、全国知事会、全国市町村会、小中高特別支援学校校長会なども、新型コロナウイルスの流行を鑑みた時、少人数学級が必要だという提言を出しています。文科省も9月の概算要求の中に入れましたし、萩生田大臣も「不転換の決意でやりたい」と記者会見で述べられました。自民党も30人学級に向けて法整備を整えたいと考えているとニュースで伝えられました。町田市も教育を重視する町田として先鞭をつけていただけることを切に要望致します。

先日発行された「まちだの教育」の「未来の子どもたちにより良い教育環境を」によれば、堺地区の小学校を大戸小学校と相原小学校のどちらかと小山が丘小学校の2校に、中学校を武蔵岡中学校と堺中学校のどちらか1校にして、他の小中学校は廃校にすると読み取れますが、本当ですか？まさか、相原小学校と堺中学校を廃校にと進められているのでしょうか？表の中にはゆくのき学園の名前は全くないのはなぜでしょうか？私の周りの人達は、寝耳に水で、このことについては全く知らないのですが、住民の声を、どれだけ聞かれたのでしょうか？

相原小学校も堺中学校も、また、ゆくのき学園と名前を変えた大戸小学校も武蔵岡中学校も地域の住民が守り育ててきた学校です。最近建てられた学校と違い、歴史と伝統のある、愛着のある学校なのです。その学校が廃校になると聞いたら、誰しもがびっくりされるに違いありません。

また、堺地区は東西に長いという地理的な条件があります。スクールバスを運行させると考えられているようですが、子ども達のバスで通学することによるストレスは計り知れません。雨の日にはかなりの密になりますし、災害時は、バスが運行できませんから、歩いて家に帰ることもなりかねません。歩くと、小さい子達は1時間以上かかります。やはり、学校は歩いて通えるところにあった方が良いでしょう。

また、コロナだけではなく、感染症にも強い学校になるには、少人数学級が一番です。国の基準が30人になったら、今度は教室が足りなくなります。町田の学校は36人以上のクラスが多いので、国の基準が35人になったとしても、教室が足りなくなることを心配しております。

学校の先生方は教育委員会の指針のもとに、毎日、子ども達が帰った後は、机・いす・その他の所をアルコールで拭いていると聞いております。それから、給食の配膳も学校の教職員が総力をあげて援助をし、感染防止に努めているそうです。学校の先生方は、コロナの流行の前も過密長時間労働で疲弊しておりました。それに加えて、コロナの流行により、感染防止のために神経をとがらせ、時間をかけなければなりません。これでは子ども達への豊かな教育にかける時間と情熱が失われ、疲弊していくのではないかと保護者も市民も心配しております。

未来に生きる子ども達が豊かな学校生活を送るには、感染防止の掛け声だけではなく、子ども達も教職員も時間的、空間的にゆとりのある学校にする事が大切と考えます。それには、一刻も早く少人数学級にすること、学校が家から歩いて行けるところにあることが必須です。

「小さな学校」は世界の流れになっております。WHOは「学校規模と教育効果」について研究した論文を集めて多面的に分析し、その結果をまとめて発表しておりますが、「学校は小さくなくてはならない」「生徒100人を上回らない規模」という点で一致しているそうです。また、学校の規模が小さいほど教育効果が高まることを実証した報告もあります。

感染防止をし、学校の三密を避けて、子ども達に豊かな学校生活を送ってほしいという保護者・教職員・市民の願いをかなえていただきたく、下記のように要望致します。

## 記

1. 少人数学級が早期に実現するように、東京都や国に働きかけてください。
2. 堺地区の学校、特に、相原小学校、堺中学校、ゆくのき学園を廃校にしないでください。